BIMONTHLY REPORT

バイマンスリーレポート

No. 400
SENDAI KEIZAI DOYUKAI
2020.2.20

［特集］

東日本大震災をきっかけに400年の時を超えて
宮城の名取と伊予の名取の絆が結ばれた

―「二つの名取を結ぶ会」の活動―

【巻頭言】 年頭所感

提言し活動する団体としての存在感を示す一年に

代表幹事／大山　健太郎

持続可能な地域社会に向け力を結集

代表幹事／一力　雅彦

明日を考え未来を語る

東北地域経済の持続的な成長に向けて
令和2年の新年会を盛大に開催

KEIZAI DOYUKAI
仙台経済同友会
Sendai Association of Corporate Executives

提言し活動する団体としての存在感を示す一年に

代表幹事
大山 健太郎
アイリスオーヤマ株式会社
代表取締役会長

あけましておめでとうございます。皆様には穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

元号が「平成」から「令和」に替わってから初めての新年であり、心機一転、当会の活動をより一層活発に進めていきたいと考えております。

昨年を振り返りますと、日本全国で数百年に一度と言われるような未曽有の災害が相次ぎ、各地の社会・経済に大きな悪影響をもたらしました。宮城県内においても、10月に発生した台風19号により各地で甚大な被害が発生したことは記憶に新しいと思います。地元の経済団体である当会として、多くの会員の皆様にご協力頂き、おかげさまで昨年末に宮城県に対して500万円の義援金をお渡しすることができました。短い期間で寄付にご協力頂いた皆様に改めて感謝いたします。

また、同じく10月には消費税が10%に引き上げられました。増税による景気悪化や消費の落ち込みなど、その影響を慎重に見極めて政府には適切な対応を取るよう強く求めていきたいと思います。

今夏には東京オリンピック・パラリンピックが行われますが、来年には東日本大震災の発生から10年を迎えます。その先に被災地が真の復興を成し遂げるために、何をなすべきか。そうした問題意識のもと、当会は2年間にわたり仙台市、市議会の幹部と議論を重ね、昨年10月にとりまとめた「地方創生提言」を村井県知事、郡市長に手交しました。

当会の提言はせんだい都心再構築プロジェクトや宿泊税導入など具体的な政策や今後の議論に結びつく成果をあげていますが、引き続き、政策の推進や実行を行政に促していきたいと考えます。こころの復興として数年にわたり提言を続け実現しつつある音楽ホールの早期建築にも積極的に取り組んでいきます。

今年度はこの提言内容を基に仙台市及び仙台市議会議員の方々との意見交換を継続しつつ、宮城県との意見交換の場を設けたいと考えております。この機会を重ね、宮城県の地方創生に積極的な提言をしていく所存です。

また、会員皆様のご協力により会員数も純増で6名増え305名となりました。会員の皆様には、更なる会員増強と積極的な情報交換や活動への参画をお願い致します。

持続可能な地域社会に向け力を結集

代表幹事
一力　雅彦
株式会社河北新報社
代表取締役社長

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。皆様には令和として初めての新年を、お健やかにお迎えのこととお慶び申し上げます。

十二支では最初の「子歳」で、新しいサイクルが始まりました。ねずみは多く子を産むため繁栄の象徴とされ、新しい物事や運気の循環が始まるともいわれます。会員の皆様をはじめ、社会が大きく飛躍する一年になりますよう心からお祈り申し上げます。

当会は、地域経済の発展のために積極的な活動を続けています。2011年3月の東日本大震災以降、復旧、復興の迅速化のため、6次にわたる提言を発表しました。昨年11月には、「『せんだい都心再構築プロジェクト』の一層の推進」、「宿泊税の導入」、「音楽ホールの早期建築」の3項目について、宮城県、仙台市に対し新たな提言書を提出しました。企業誘致の促進やインバウンド誘客、文化交流推進などに主眼を置いたもので、地域振興を後押しする施策をさらに促しています。これまでの当会の取り組みを反映した提言であり、仙台の都市機能の強化や、海外観光客の「誘客」「アクセス」「受け入れ態勢」の3要素は一層の強化が不可欠といえます。音楽ホール建設に関しても働きかけを強めています。

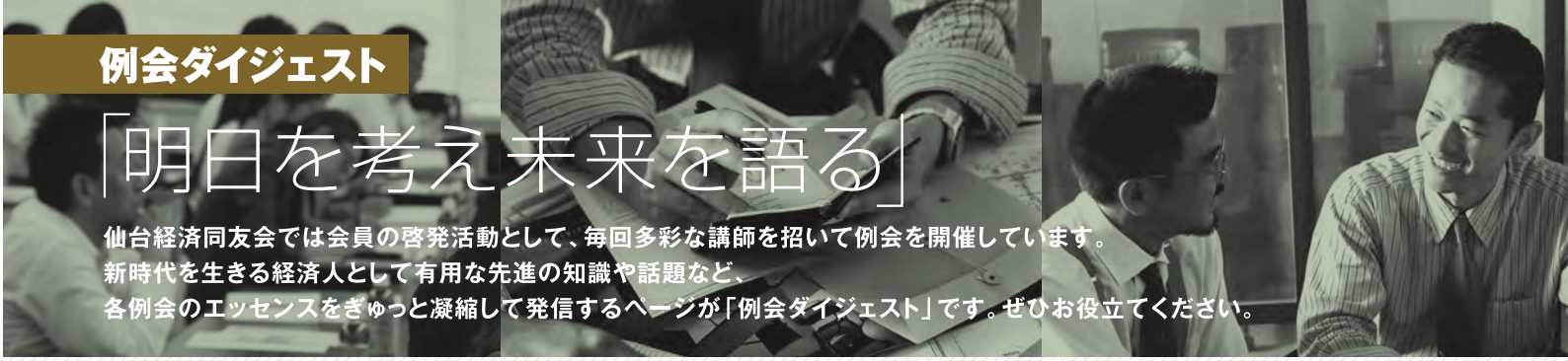
通常の活動では九つの委員会を通し、学び、研鑽する場を提供しています。被災地での起業や競争力強化、人材育成が主眼です。「経営リーダーシップ・プログラム」には、次代を担う地元経営者が参加しています。「トークインサロン」は経営者らの講師に参加者が気軽に質問できるなど、大変好評を得ています。

持続可能な地域社会を次世代に引き継ぐためには、新たな事業やサービスを創り、高付加価値を生む産業の高度化を図らなければなりません。これらを実現するために、力を結集して取り組んでいきたいと思います。

東日本大震災から9年を迎えます。復興に向け着実に前進していますが、今なお5万人近くの人たちが避難生活を余儀なくされており、復興はまだまだ道半ばです。さらに昨年10月には台風19号の豪雨被害が、関東から東北までの広い地域で発生しました。経験したことがない集中豪雨で、宮城県内では大崎市と丸森町を流れる河川が各所で氾濫し、浸水被害が広範囲に及び復旧が遅れていることが心配です。地球温暖化の進展で、雨の降り方が根本的に変わってきました。これまで数十年に一度といわれた巨大台風が今後、常態化、激甚化すると懸念されています。災害が新しいフェーズに入ったと言え、新たな災害リスクと向き合うことが急務となっています。

7月から開催される56年ぶりの東京五輪・パラリンピックは、「復興五輪」と位置付けられています。ギリシャで採火された聖火が3月20日に東松島に到着後、福島・Jヴィレッジをスタートし、被災地から全国をつないでいきます。世界トップレベルの競技が、被災地復興に弾みをつけてくれることを大いに期待しております。

本年も皆さまの変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。



例会ダイジェスト

「明日を考え未来を語る」

仙台経済同友会では会員の啓発活動として、毎回多彩な講師を招いて例会を開催しています。新時代を生きる経済人として有用な先進の知識や話題など、各例会のエッセンスをぎゅっと凝縮して発信するページが「例会ダイジェスト」です。ぜひお役立てください。

2019年12月の月例会では、下記の講師にご登壇いただきました。講演内容（抄録）を仙台経済同友会のホームページに掲出しております。

12月例会

東北地域経済の持続的な成長に向けて

東北経済産業局長　**相樂 希美氏**

昨年、東北経済産業局は2019～21年度の中期政策を策定しました。そのベースとなった東北6県の経済状況などをみると、鉱工業生産指数や製造品出荷額などは東日本大震災前の水準まで戻っている一方で、労働力人口比率などは全国との差が明確になってきています。また、被災地の商業施設の整備など「稼ぐ力」も各県で顕在化しつつあります。リーマンショック、東日本大震災を経て、東北は現在どのような経済状況なのか、また、今後の予測や課題についてお話しいただきました。

◉講師紹介

東北経済産業局長

相樂 希美氏

昭和62年東京大学工学部船舶工学科卒業。平成元年東京大学大学院工学系研究科船舶工学専攻修了。平成元年通商産業省入省（機械情報産業局電子政策課）。平成6年米国留学。平成8年プリンストン大学ウッドローウィルソン公共政策大学院修了。平成21年貿易経済協力局貿易管理部安全保障情報調査室長。平成23年独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構環境部長。平成26年独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構備蓄企画部長。平成27年大臣官房情報システム厚生課長。平成29年東北経済産業局長。

令和2年の新年会を盛大に開催

当会では、新春を寿ぎ会員の交流を深めるため、毎年1月に新年会を開催しています。令和となり最初の新年会は今年1月24日に勝山館において、宮城県知事・村井嘉浩様、仙台市長代理副市長・藤本章様をお迎えし、総勢105名で執り行いました。大山健太郎代表幹事の年頭挨拶、お二人の来賓からの祝辞、一力雅彦代表幹事の乾杯後、参加者一同が大いに交流を深め、藤﨑三郎助副代表幹事の中締めの挨拶をもって盛会のうちに終了しました。

a. 大山代表幹事の挨拶
b. ご歓談の様子
c. 一力代表幹事の挨拶
d. 村井嘉浩県知事の祝辞

［特 集］
伊達ものがたり4

東日本大震災をきっかけに400年の時を超えて
―「二つの名取を結ぶ会」の活動―

400年前、伊達政宗公の長男・秀宗公は四国宇和島藩の初代藩主となりました。その際に付き従った伊達藩名取郷の人々は佐田岬半島の西端に住み着き、そこを「名取」と命名し、集落の人々は「伊予の名取」と呼んできました。
東日本大震災後の平成27年12月、宮城の名取と伊予の名取が交流する「二つの名取を結ぶ会」が結成されました。震災で失ったものも多い中で、400年の時を超えて新たな絆が結ばれています。
今回の特集では、併せて四国宇和島藩の歴史や藩祖・伊達秀宗公の生涯について紹介します。

インタビュー 宮城

「宮城の名取」と「伊予の名取」とが交流する「二つの名取を結ぶ会」の発足に尽力した会の代表の大橋信彦さんに、結成の経緯や活動について伺いました。

400年もの間、先祖の地・宮城の名取に対して、伊予の名取の方々はずっと深い思いを抱いていたことを知り、感動しました。

◉大橋 信彦さん　二つの名取を結ぶ会 代表。ゆりりん愛護会 代表。 問／☎090-7066-6014

Q 愛媛県にも名取という地区があると、どのようないきさつで知ったのですか？

最初に名取という地名が愛媛県にあると知ったのは、同じ名取市出身の先輩のＳさんからでした。建築家のＳさんは、宇和島城を見に行った時に、案内してくれた方から「こちらにも名取という地区があることを知っていますか？ 佐田岬半島の伊方町にあるのですが、そこに住んでいる人たちは“伊予の名取”と呼んでいます」と言われたのだそうです。それを聞いてＳさんは、立ち寄る予定がなかったのに、伊方町の名取地区までわざわざ行ったというのです。後日、私と会った時に伊予の名取について話してくれ、資料なども見せてくれたのです。

名取市に生まれ育った私も、Ｓさんと同じように「愛媛県にも名取がある！」ということになぜか、胸が躍りました。

平成27年7月、長崎に行く用事があったので、その帰りに伊予の名取に行ってみようと計画。予め伊方町の郷土館に問い合わせていたこともあって、そこの学芸員のＴさんが、名取地区までわざわざ案内してくださいました。私の来訪を聞いていた伊予の名取の皆さん約20名が「名取集会所」に集まって大歓迎をしてくれました。名取地区の区長・Ｋさんは、「伊予の名取には現在、200余名が住んでいて、凡そ400年前、伊達政宗公の長男・秀宗公が宇和島藩主として入国した際に、仙台藩・名取郷の住民がそれに同道し、軍馬の育成の命を受けて佐田岬半島に住み着きここで暮らしてきた。私たちはその子孫だ」と話してくれました。

さらに、驚いたのは、宮城の名取が東日本大震災で大きな被害を受けたことに心を痛めて、「先祖の地が大変なことになった。なんとかせないかん」と話し合って募金活動をし、2度にわたって、名取市に義援金を送ってくださったということです。

私たち名取市民は全く知らなかったことでしたが、伊予の名取の皆さんは、ずっと宮城の名取に思いを抱き続け、被災支援活動までしてくれていたことに深い感銘を受けて帰って来ました。

会を結成して、伊予の名取と宮城の名取を訪問しあい、定期的に交流会を開催しています。

Q その後、伊予の名取の皆さんとどのような交流が続いてきたのでしょうか？

帰って来てから、伊予の名取の皆さんとの交流を続けていきたいと考え、「二つの名取を結ぶ会」を結成しました。現在の会員数は宮城、伊予合せて約50名。二つの名取の交流会を行うと同時に、藩政時代からの名取の文化遺産を次世代に伝えるための歴史講話会を毎年実施しています。

歴史講話会では、伊達秀宗公が宇和島藩の初代藩主となった際に、軍馬の飼育のために名取郡の人々が同道したということは間違いないということが分かりました。佐田岬半島には馬の飼料となるチガヤという牧草が密生しており、軍馬の育成に適していたということです。

会として最初に行ったのは、正月飾り用の松を伊予の名取へ送ることでした。佐田岬半島ではマツクイムシの被害がひどくて、正月飾り用の松もなかなか手に入らないと聞いていましたので、私が代表を務めている「ゆりりん愛護会」※で育てていた松から正月飾り用の松を用意してそれを200本送りました。名取地区の戸数が凡そ90戸と聞いていたからです。

さらに、平成28年には震災の津波被害から生き残った閖上の松のマツカサから種を取って育てていた松苗10本を送り、名取市内の有志16名が訪問して、地元の方々と共に植えました。この松を私たちは「縁結びの松」と名付けました。伊予の名取の農家の皆さんからは、おいしい柑橘類が送られてきて交流が続いています。

さらに昨年、会の活動を紹介した新聞記事を読んで、仙台の「山家会」※の世話役の方から連絡があったのです。「山家会」というのは伊達政宗の命により初代宇和島藩主・伊達秀宗公の家老として宇和島に付き従った山家清兵衛の子孫たちの会だというのです。清兵衛は、不幸にも暗殺されましたが、死後も地域の人たちから「和霊様」と慕われてきたということです。

そこで、伊予の名取の方々が昨年こちらに訪れた時、山家会の方々と会っていただきました。愛媛の方々にとって、山家清兵衛は学校でも学ぶ歴史上の人物ですので、この会合は双方に喜んでいただきました。

きっかけは震災でしたが、会の活動によって、それまで400年もの間宮城の名取と伊予の名取を隔てていた絆が結ばれ、さらに、今までその存在を知らなかった山家会とも交流が生まれていく…感慨深いものがあります。

今後、次世代にもこの二つの名取のことが知られ、絆が繋がっていくことを願っています。

※ゆりりん愛護会＝被災した海岸林の再生のために、植林事業など行う市民団体。東日本大震災で壊滅的な被害を受けた閖上海岸で、生き残った松のマツカサを採取して京都府緑化センターで苗を作ってもらう。会ではこの松苗を名取市内の圃場で育成し、海岸林再生に向けて活動している。
※山家会＝５ページ参照

宮城の名取と伊予の名取の絆が結ばれた

名取の石垣

宇和海を一望する斜面の標高約100～150mにある伊方町名取地区。石垣を、青石・石灰石などさまざまな石を使い、野良積み・平積み・矢羽根積みなどの工法で積み上げた。変化に富む石垣が独特な景観を生んでいる

佐田岬半島

海側から佐田岬半島を臨む。半島の先端に建つのは佐田岬灯台

インタビュー 愛媛

伊予の名取で柑橘栽培を営んでいる宮部元治さんは、二つの名取を結ぶ会の活動に積極的に参加し、昨年11月に伊予の名取のメンバーとともに訪問し、宮城の名取の方々と交流を深めました。

宮城の名取を訪れると、なぜか懐かしい気持ちになります。会での交流をきっかけに、伊予の名取のよさを発信したいと思います。

◉宮部（みやべ） 元治（もとはる）さん　伊方町名取に住む柑橘農家。有機肥料を使った減農薬栽培をしている。伊予の名取の良さを発信する「となりのなとりの会」を地元有志で立ち上げている。問／☎090-8284-2292

Q 伊予の名取では、宮城の名取が先祖の故郷だということをほとんどの方が知っているのですか？

各家で、ずっと語り継がれてきているようです。私も祖父母から「先祖は宮城からやってきたんだよ」と、聞かされてきました。

残念ながら明治時代に集落で起きた大火で古文書なども焼失してしまい、先祖がどのような経緯で移り住んだのかなどの詳しい文献は残っていませんが、私たちはずっと宮城の名取に親しみを覚えて育ってきました。

伊予の名取のメンバーとこちらに来たのですが、みんな「なぜかとても懐かしい気持ちがする」というのです。伊予の名取は、段々畑のようなみかん園が広がる風景ですので、名取市の広々とした風景とは異なるのですが、道路標識などで名取という字を見るだけで、故郷に帰ってきたという気持ちになるということではないでしょうか。

愛媛県最西端の佐田岬半島にある伊予の名取は、標高100～150mの斜面にあり、家も畑も石垣に守られています。柑橘栽培農家が大半で高齢化が進んでいます。会の活動をきっかけに宮城の名取の方々が訪れてくれたり、名取市にある尚絅学園大学の学生たちが来て、伊予の名取の歴史を学び、柑橘農家の現状などを知っていただきました。さらに、このような交流が広がって名取地区全体が元気になってくれるといいですね。

私自身も積極的に石垣に囲まれた伊予の名取の風景のすばらしさ、柑橘類のおいしさなどを発信して行きたいと考えています。

◀▼宮城の名取の皆さんが伊予の名取を訪問して、伊予の名取の皆さんと「縁結びの松」を植樹した

▲二つの名取の方々は懇親会でなごやかに語り合った

▼ミカン山から宇和海を臨む

▲植樹して3年。伊予の温暖な気候の中で「縁結びの松」はスクスクと成長している

特集・次ページへつづく

［特 集］
伊達ものがたり4

時代に翻弄されて、父政宗公との確執もあった波乱の生涯

宇和島藩初代藩主
伊達秀宗公ものがたり

▲日本に現存する12城のひとつ。二代藩主伊達宗利により1671年(寛文11)に城郭の大修理を終え、現在までそのままの姿で残っている

1591年(天正19)伊達政宗の第一子として生まれた秀宗公は、徳川幕府により伊予宇和島に10万石を与えられて宇和島藩の藩主となります。
豊臣政権から徳川政権へと激しく時代が動く中で、時代に翻弄され、父政宗との確執を抱えながら、宇和島藩初代藩主として生きた67年の生涯でした。

父政宗と上洛し、わずか4歳で秀吉の命で親元を離れて実質的な人質に

秀宗は、1591年(天正19)に誕生し兵五郎と名付けられた。母は政宗の側室新造の方(異説あり)。正室愛姫に男子が生まれないことから、庶子ではあるものの伊達家の継承者と目されていた。

1594年(文禄3年)、政宗は数え年4歳の兵五郎を伴い上洛し豊臣秀吉に拝謁。天下人の秀吉の命により息子・秀頼の家臣となったが実質的な人質である。1596年(慶長元年)、兵五郎は秀吉の「秀」をもらって秀宗と称し、6歳で伊達家の後継ぎと認められたことになる。しかし、その立場が揺らぎ始めたのは3年後のこと。長い間子供に恵まれなかった正室愛姫に、五郎八姫に続いて1599年(慶長4)、虎菊丸が誕生したのである。

さらに、豊臣秀吉がこの世を去り、1600年(慶長5)関ヶ原の戦いが起き、徳川家康が勝利。政権は豊臣から徳川へと移行し、豊臣家の元で育った秀宗の立場は微妙なものとなってしまった。

徳川幕府から四国伊予の宇和島10万石を与えられ、家臣たちが付き従った

関ヶ原の戦いで徳川方に付いた政宗だが、秀宗の今後に苦慮したことが、書状などに残っている。1602年(慶長7)、12歳になった秀宗は家康に拝謁し、証人(人質)として江戸に向かった。政宗は人質として過ごすための細かな注意を与えたという。

1614年(慶長19)、秀宗に四国伊予の宇和島10万石が与えられた。そして家康の命で、彦根藩主伊井直正の娘亀を妻とした。

宇和島には江戸の人質時代からの近習のほか、57騎馬軍団、足軽や小者合わせて約1200名が付き従った。そして、政宗は未知の土地での領国経営を始める秀宗を心配して、後見役の桑折左衛門、侍大将に桜田玄蕃、惣奉行(そうぶぎょう)に山家清兵衛(やんべせいべえ)などを秀宗の家臣として派遣。その上、藩主としての心構えを5カ状の教訓としてしたためて贈っている。

わずか、数え年5歳で父、母から離れて大阪で豊臣家の人質となり、次に12歳で江戸に赴き徳川家の人質となった。そして、25歳で四国の西端・宇和島で藩主となったのである。

一方で、正室愛姫のもとに生まれた虎菊丸は母と共に江戸上屋敷で育ち、1611年(慶長16)に江戸城で元服し、将軍秀忠から一字を賜って忠宗となった。1617年(元和3)家康の外孫・振姫と結婚し、伊達家の後継者となったのである。

長男でありながら、宇和島城城主となった秀宗の胸に去来したものはどのようなものだったのだろうか。

惣奉行山家清兵衛とその一族の暗殺がもとで父・政宗との確執が起こる

秀宗が領主となった宇和島藩は、支配者が次々と変わり領民たちは疲弊していた。また、宇和島藩に入領する際に必要となった多額の資金を政宗から借り入れており、その返済もしなければならなかったが、返済を巡って藩内は紛糾。

政宗が見込んで惣奉行として藩運営に携わった山家清兵衛は、政宗隠居料として返済の代わりに毎年3万石を伊達藩に送るようにとり図った。藩財政が厳しさを増す中で、清兵衛は領民の負担を軽減する一方で、家臣には減俸を強いた。そのため領民からは慕われ、家臣からは疎まれたという。清兵衛が苦慮している中で、秀宗が浪費していると政宗は苦々しく思いそれを諌める手紙を送っている。

1620年(元和6)、清兵衛が屋敷で暗殺された。次男、三男も斬殺され、9歳の四男は井戸に投げ込まれたのである。この凄惨な暗殺に秀宗が関わったとされており、政宗は事件を知って秀宗が勝手なことをしたと激怒。

秀宗を勘当し3年間の絶縁を申し渡した。怒りはそれだけでは収まらず、江戸幕府老中土井利勝に「秀宗は勘当した。10万石を治める器ではないので返上したい」と申し出た。何とか改易することなく収まったのは、秀宗夫人の実兄伊井直孝や周辺の家臣のとりなしによるといわれる。

その後、秀宗は父との関係改善に努め、1622年(元和8)には政宗は秀宗に鷹を送り、秀宗からは返礼品が届けられたりし、親子の仲は次第に修復された。

清兵衛暗殺事件は宇和島藩に大きな波紋をもたらした。台風や大地震などの天災や凶事が続き、秀宗の長男、次男、6男が早世してしまった。人々は清兵衛の祟りと畏れた。

さて、政宗の晩年には親子の穏やかな交流が続いたが、1636年(寛永13)年政宗は70歳で死去。伊達政宗の葬儀に際して秀宗は参列したが、仙台を訪れたのは初めてでこの時だけだった。

晩年は病気がちで1658年(明暦4)に江戸藩邸でその波乱に満ちた68歳(享年)の生涯を閉じた。

400年を経て今も慕われる山家清兵衛(やんべせいべえ)

和霊信仰と山家会

宇和島藩では、凄惨で不幸な死を遂げた山家清兵衛の祟りと恐れられるような転変地異や凶事が次々と起こった。1653年(承応2)に秀宗は清兵衛の御霊を慰め、祭神とする山頼和霊神社を建てた。その後参拝者が増加し、五代藩主村候の時に和霊神社の大規模な社殿を造営。次第に祟りの神から産業振興の神として広く信仰されるようになり、現在西日本を中心に150社以上の和霊神社がある。

和霊神社(宇和島市)
▲空襲で焼失したが、昭和32年に再建された。大鳥居は石造りとして日本最大

仙台にも和霊神社がある。山家清兵衛の長男は仙台に残っていたので、屋敷内に清兵衛やその一族を祀る神社を建てて今も守り続けている。ほかに、一番町のフォーラスの屋上、青葉区台原に和霊神社が祀られている。

和霊神社(仙台市台原)
▲東日本にある数少ない和霊神社

宇和島の和霊神社では7月23・24日に「和霊大祭うわじま牛鬼まつり」が開催されてにぎわう。

さて「山家会」は、20数年前、主に仙南地方に住む山家姓を名乗る人々が集まり「山家わかば会」としてスタートし、現在、会員は約50名。

山家会の世話役の1人は「毎年、宇和島の和霊神社から山家会に対して和霊大祭への招待があり、数年に一度宇和島に会員数十名で赴き祭りに参加します。祭り会場で『今年は宮城から山家清兵衛の子孫の皆さんがおいでになっています』とアナウンスが流れると、ワーッという大きな拍手と歓迎の声があがります。400年を経ても山家清兵衛がいまだに慕われていると感じ、こちらも感激します。今年はちょうど400回忌にあたりますが、清兵衛の遺徳を偲び、会を長く存続させていきたいと思います」と語っている。

参考文献「シリーズ藩物語　宇和島藩」宇神幸男著　現代書館発行
「仙台市史通史編4　近世2」仙台市史編さん委員会編　仙台市発行

新入会・交替会員紹介

会員総数 331名（2020年1月31日時点）

入　会（1名）

会員
佐藤 章央様
東洋ネクスト株式会社
代表取締役

交　替（2名）

会員
八木野 守様
フィリップモリスジャパン合同会社
南東北ディストリクト営業部長

会員
渡辺 崇様
株式会社エイチ・アイ・エス
東北・北海道・新潟事業部部長

季節の祭り、イベント情報

こけし・ひなまつり

2月1日（土）→3月22日（日）

こけしびなまつり

木のぬくもりと素朴な味わいが魅力の「こけし雛」。シンプルながら、自由な発想で作られる手造りの一点物はどれも個性的で長くそばに置きたい一品です。制作の様子が見学できる実演コーナーや販売コーナーもあり、こけしの絵付体験（1本850円）もできます。

- お問い合せ／TEL.0224-34-2385
- 会場／みやぎ蔵王こけし館　● 時間／9:00～17:00（最終入館～16:30）
- 休／なし　● 料金／大人300円、小人150円
- アクセス／東北新幹線・白石蔵王駅、ＪＲ東北本線・白石駅より
  宮城交通バス「遠刈田湯の町」下車徒歩10分
  東北自動車道・村田ICより車で約20分

ひなまつり

2月28日（金）→3月3日（火）

うれし楽し 古民家・道中庵deひなまつり

仙台市景観賞受賞、仏ミシュランガイド掲載の古民家・道中庵全館を会場に、江戸期の雛人形や華やかなつるし飾りを展示。同時に手づくりサロンや（要申込）カフェなども。3月20日（金）まで市内10会場連携による「仙台ひな街道めぐり」開催。詳細は要問合わせ。

- お問い合せ／TEL.080-5558-4351（粋々まちなかプロジェクト代表：齊藤）
- 会場／旧道中庵ユースホステル、「仙台ひな街道めぐり」は、旧針惣旅館、
  秋保里・センター、石橋屋はじめ合計10箇所が連携
- 時間／道中庵10:00～15:00　他は会場によって異なる
- 料金／無料
- アクセス／JR太子堂駅より徒歩約8分　太白区大野田2-3-7

歴史・ひなまつり

2月1日（土）→3月29日（日）

齋理屋敷春の企画展「齋理の雛まつり」

仙南地域の豪商・齋藤家の蔵屋敷に、享保雛や古今雛など由緒あるひな人形を展示。40畳の広間に並ぶ豪華な衣装の人形や道具類の見事さには思わず目を奪われます。期間中は、古布と和紙で作る雛カード教室などイベントも多数開催されます。

- お問い合せ／TEL.0224-72-6636（丸森町蔵の郷土館齋理屋敷）
- 会場／蔵の郷土館 齋理屋敷
- 時間／2月9:30～16:30、3月9:30～17:00（入館は閉館の30分前まで）
- 休／月曜（祝日の場合翌日）　● 料金／大人620円、小人310円
- アクセス／阿武隈急行線・丸森駅より車で約5分
  東北道・白石ICより車で約40分

歴史・ひなまつり

2月15日（土）→3月15日（日）

企画展　「雛人形」

明治から大正期に建てられた「旧氏丈邸（きゅううじじょうてい）」内に、江戸から昭和にかけての様々な雛人形やお飾りが展示されます。角田館主石川家に伝えられた伊達家ゆかりの雛人形や、伊達家の家紋が入った雛道具も必見です。

- お問い合せ／TEL.0224-62-2527（角田市郷土資料館）
- 会場／角田市郷土資料館
- 時間／9:00～16:30（入館は16:00まで）
- 休／2月17日、25日、3月2日、9日
- 料金／一般300円、高校生250円、中学生以下無料
- アクセス／常磐道・山元ICから車で15分

ピックアップ瓦版

被災地復興支援
県に500万円贈呈

仙台経済同友会

仙台経済同友会は18日、台風19号の被災地を支援するため、県に義援金500万円を贈った。代表幹事の大山健太郎アイリスオーヤマ会長が県庁を訪れ、村井嘉浩県知事に目録を手渡した。

村井知事（左）に目録を手渡す大山代表幹事

大山代表幹事は、自社の工場や社員も被災したことに触れ「被災した多くの県内企業が通常業務へ向けて必死になっている。被災地の一日も早い復興を願っている」と話した。

村井知事は同日午前に丸森町を視察したことを踏まえ「原状復帰はまだまだ見通せない。被災者のために有効に使わせていただく」と謝辞を述べた。

同友会は11月上旬から会員企業に寄付を呼び掛けており、12月16日までに寄せられた分を贈った。県は災害義援金として活用し、被災者に配分する。

（出典：河北新報 2019年12月19日（木））

次号の特集のご案内

四国に渡った宇和島伊達氏の歴史や震災を機に交流が始まった宮城と愛媛「ふたつの名取」の特集はいかがでしたか。
2020年は支倉常長がヨーロッパから戻ってから400年目。次号の特集では、波乱に満ちた支倉常長の生涯をご紹介します。

仙台経済同友会
BIMONTHLY REPORT
2020年2月号　No.400　令和2年2月20日発行

○発行人／大山健太郎　一力雅彦　○編集人／川嶋輝彦　○発行所／仙台経済同友会
〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービルディング12階
TEL／022-223-8555　FAX／022-262-2650　URL／http://sendai-doyukai.org
製作・印刷／今野印刷株式会社